
上海コネクション2000

きりもんじ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

上海「ネクション2000

【Zコード】

N1312K

【作者名】

きりもんじ

【あらすじ】

毎年上海経由で義烏まで買い付けに行きます。もうかれこれ6年くらいになります。今では年2回夏と冬にほぼどんぼ返りですが、何とか人的交流も始まりました。時間があると近郊の水郷めぐりをしています。こうなつたいきさつと、現状。これから希望あふれる将来を旅日記風に書き綴つてみました。

家族で始めての上海へ

2000年12月27日

朝6時皆で家をでる。曇天でまだ真っ暗だ。
京都駅から関空行きの”はるか”に乗る。

息子が「見てみい、朝焼けがごつ つう綺麗や」
と窓の外をさして言う。薄明かりの雲の切れ間から、
朝日がご来光のように光の筋を出して昇り始めた。

すばらしく美しい。娘と妻と、4人がしばし見とれていた。
何よりもあの息子が「見てみい」と言ってくれた事が、
ことのほか親父としてはうれしかった。

関空 上海は、2時間そこそこ。あつという間だ。
あわただしく食事が出て、それでも息子と
隣りあわせで、卓上のゲーム機を扱う。

息子が将棋の画面を見せてきた。おどろいた。
いつの間に憶えたのだろう。教えた記憶はさらさらない。
そういうえば三国志とか方針演技とかずいぶん詳しい。
中一13歳。今まで忙しすぎてほとんど話したこともない。
いつのまにかちゃんと大人になっていくんだ。
娘もそうだろうか？

長年の罪滅ぼしの家族旅行。実りあるものにしなければと
親父は心に決めていた。娘は小六12歳。年子なのだ。

この十年ほど、子育ては全部妻任せで、大変だったと思つ。

必死で頑張った挙句会社は倒産。意を決して独立した。
そしてやっと勝ち得たこの旅行だ。親父の思い入れは
相当なものだつた。

息子とはなん手もせきないうちに上海に着いてしまつた。
新空港浦東空港に降りる。日差しは明るくほこりっぽいが
暖かそうだ。

まだできたばかりの空港を歩く。ほとんどの店舗が
まだ開業していない。だだつ広い新空港だつた。

功夫茶

出口でツアーの現地ガイドに出くわす。後一組、名古屋からの母娘とおばちゃん一人立った8人のツアーだ。

ガイドはミニバンの中でしきりにだだつ広い浦東地区の説明をしているが、それがどうしたという感じ。

快晴だがとてもほこりっぽい。この地域は田典型的にこうなのだろう。1時間ほどで南京路裏の2流ホテルに着く。

2泊3日のかに食の旅1人3万円。小休止してかにを食べに向かう。途中土産物屋に立ち寄るがべら業に高くて品揃えもなく、店員もぶつきらぼうで8人とも手持ち無沙汰だった。

やつと目的のレストランに着いた。

丸テーブルを囲んでかに食が始まった。

辯髪の若者が60cmはあるかと思われる長い注ぎ口の金属製の急須を器用に使いこなす。

丸テーブルの上に置かれた湯飲み茶碗に1人ずつお茶をついで周る。的確に小さな茶飲みに茶を注ぐ。

首の後に急須を回し持ち、背中越しに長い注ぎの先から勢いよく茶が注がれる。

かなり高度な技術がいる。失敗すれば卓上は水浸しだ。

1人注ぎおわると功夫のポーズをとりながらまた、

背中に急須を回して次の客に茶をそそぐ。

そのたびに歓声が湧き上がる。

とても楽しいひとときだった。

夜、南京路でシャンプーを探す。
百貨店でやつと見つけたが、

べらぼうに高くでかく粗悪であった。

雲南夜市街を探したが見つからず、
ケンタツキーフライドチキンを食べて帰った。

豫園かいわい

20001228

朝タクシーで豫園へと向かう。

頑丈にガードされた運転席に驚いたが、中国ではどこでもそうみたいだ。

まずは豫園に入る。外人観光客も多い。

石と樹木の有名な庭園だ。

庭園内には土産品店がいくつかあっていかにも老獏そうな老人が客を呼び込んでいる。

中国語、日本語、英語、韓国語で声をかけてくる。先の一人はドイツ人だったのとまどつていた。

出口の篆刻屋からゆづくりと店頭だけを見て歩く。小さな店がぎっしりと連なつていて下町情緒たっぷり。

竹細工がちょっと目を引いたくらいか。
後はいわゆる中国物。

豫園の北側卸問屋街に向かう。

狭い通路にびっしりと品物が置いてある。

あつとけつまづいたら誰かのどんぶりだった。

足早に立ち去つたがおばさんの

まくし立てる声が後ろから聞こえた。

大変なのはトイレ。嫁はんと娘は大型貴金属店の2階に列を作つて並ばねばならなかつた。しかもそこは日本とは比較にならないほど汚かつたとのこと。

両替はここが中国銀行?と思つほゞのコンクリートガレージ。入り口にガードマンが一人立つていて、入ると鉄格子の中に一人職員がにつこり笑つて座つていた。

豫園の路地裏を歩く。薄汚れた古いおお造りのアパート。瓦礫の山。どこもほこりっぽい。

向ひからおじさんが歩いてきた。手に持つてゐるのはぶたの足。嫁さんと娘は思わず吐きそうになつたみたいだ。アジアの裏通りは女達には無理かなと思う。

露店から小さな店舗がずっと切れ目無く続いている。「ライライライ!」といつて荷物いっぱいのリヤカーが通る。

//Hンパオ

問屋街のはずれに日本のアニメのパクリポスター屋があった。これはたぶん無許可だと思うが……。

ひとりわ人の出入りが激しい店がある。
小さな入り口を何とか分け入ると
そこはおもちゃ問屋だった。

倉庫がそのまま店になっている。
皆持ちきれないほどの荷物を抱えて出て行くことになった。

昔懐かしいブリキのおもちゃもある。

結局たくさんのおもちゃを抱えて出て行くことになった。
どこかで食事を、下町の庶民的なところを探して
テント村みたいな食堂に入った。

もう完全に日本語も英語も通じない。

料理をあれこれ指差してやつととりあえずそろえた。

「//Hンパオ?」としつこく言つから「ヤー」と言つたら、小さなパンが10数個出てきた。
でも安っすー!たらふく食べた。

食後一旦ホテルへ引き上げ、小休止して、
日暮れ前に外灘へ向かつた。

泥色のゆつたりとした川の流れの向こうに、

上海の象徴明珠塔がそびえている。

外灘は舗装されたプロムナードで観光客でいっぱいだ。

富士力ラーがいたるところにある。

外白渡橋の手前の公園で写真を撮る。

南京路

日が暮れてきて向こう岸がライトアップされた。とても美しい。
向こうからのこちらのライトアップもまた美しいと思われる。
しばし見とれて完全に暗くなつてから南京路へ向かつた。

途中から歩行者天国になつていて広いプロムナードに
観光用のミニ列車がゆっくりと走つている。

南京路を端から端まで急いで歩いても30分はかかる。
二手に分かれて親父と息子はおもちゃを買いに、
母と娘はブーツを買いにデパートへ入つた。

後で聞けば、ブーツのほうは身振り手振りで大変だったそうだが、
ちゃんと値切つて好みのブーツが買えたとか。

息子はだだつ広いおもちゃ売り場をくまなく見て周つて、
日本ではもう売られていらないレア物のガンダムを見つけた。

意気揚々と待ち合わせの日本レストラン前にて母娘を待つ。
変な目つきのおじさんが、

「ペニー、ペニー、オンナノン」

確かペニーは安いと言つ意味だ。

そこへ母娘が現れた。

屋上の日本レストランでハンバーグを食べる。

日本にいるのとちつとも変わりはしない。

それでも家族。とても楽しく幸せだった。

げつpeiを頬張りながら帰る。第一百貨でお土産を買う。
シルクのハンカチと梅干とお茶を買つたら、梅干は力チン力チン
でペットボトルのお茶は砂糖で甘くてとても飲めなかつた。

上海「ネクション」の始まり

12月29日

朝フロントに集合。

又8人揃って帰国の途に着いた。

だだつぴろい浦東空港で待つ。

「ドンジンカイシ」

アナウンスを聞いた。

「金吾、ドンジンカイシで搭乗開始のことやな？」

「そや、ドンジンカイシや」

X X X

あつという間の3日間だったが最高の思い出になった。
後は自分のミッションとして、

「あてにすな何にも気にせず考えず、

毎年中国それでいい！」

中国との人脈作りに一生をかけようと決めた。

海外と言つことで過去を振り返つてみると。

- | | |
|-----|-------|
| 20代 | ヨーロッパ |
| 30代 | インド |
| 40代 | ハワイ |
| 50代 | 東南アジア |

となる。よくまああちこち行つたものだ。
ところが残念なことがひとつある。それは、
どの国とも人脈がつながつていないと
いふことだ。

今からでも遅くはない余生をしつかりと
人脈作りにかけようと思つ。

そこで60代以降は死ぬまで中国と決めた。
中国は広くかつ奥深い。じつくりと構えて、
あせらず、点から点、線から線、そして帯になるまで、
手作りの人脈の橋をかけ通すのだ！

と言つわけで、上海経由で毎年仕入れに行くことにした。
『上海コネクション』

はじめのうちは各都市を巡る旅のエッセイになるだろうが、
必ずや数年後にはすばらしい人脈を作り出すぞ。

さあ、『上海コネクション』のはじまりはじまり……！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1312k/>

上海コネクション2000

2010年10月10日12時19分発行